

資源管理に必要な情報提供事業（要約）

小泉広明

目 的

青森県日本海、太平洋、津軽海峡の沿岸域における漁況・海況情報を収集し、得られた情報を漁業者等に提供する。

材料と方法

青森県の日本海沿岸・沖合定線観測及び太平洋沖合定線観測を実施し、対馬暖流(日本海)及び津軽暖流(太平洋)の流勢指標を平年(1963～2009年平均値)と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や当所のホームページを通じ情報提供を行った。

結 果

A. 海況の推移

青森県日本海沖合における対馬暖流の勢力は4月から5月がかなり強勢、11月はかなり弱勢で推移した。

0m層最高水温は、5月はかなり低め、6月ははなはだ低め、9月、10月、12月はかなり高めとなった。50m層最高水温は、8月、10月はかなり高めまたははなはだ高めとなった。100m層最高水温は、9月ははなはだ高め、11月にははなはだ低めとなった。100m層5℃等温線の沿岸からの位置で対馬暖流の流幅をみると、舳作線では4月はかなり広め、5月ははなはだ広めとなった。その後、8月はかなり広め、11月はかなり狭めであった。十三線では4月及び5月がやや広め、6月はやや狭め、9月、10月は広め、11月はやや狭め、12月はやや広めとなった。対馬暖流の水塊深度を7℃等温線の最深度でみると、2月、4月、6月、8月はやや深め、11月はかなり浅め、12月はやや深めであった。対馬暖流の北上流量について水深300m層を無流面とした地衡流量でみると、2月はかなり多め、4月はかなり少なめ、6月から10月及び12月はやや多めからかなり多め、11月はかなり少なめであった。

青森県太平洋沖合における津軽暖流の勢力は概ね弱めに推移した。

0m層最高水温は9月及び11月ははなはだ高めとなった。50m層最高水温は9月及び11月がはなはだ高め、100m層最高水温は9月、11月及び12月がかなり高めとなった。津軽暖流の深さを尻屋崎線における7℃等温線の最深度でみると、6月を除く各月でやや浅めであった。津軽暖流の張り出し位置を尻屋崎線における100m深5℃以上、塩分33.7psu以上の東端位置でみると3月及び11月はやや弱め、12月はかなり弱めとなっていた。

B. 主要魚種の漁獲動向（2010年）

2010年の本県の漁況の特徴は全県的なマイワシの不漁、日本海のマグロやマダイの好漁であった。特に、日本海のマグロは234トン、マダイは195トンと、1985年以降最高の漁獲となった。

C. 魚種ごとの漁獲動向（1985年～2010年）

八戸港のサバ類漁獲量は、1985～1989年は4万～8万トン台で推移したが、1990～1992年には1万トン以下となった。1993年には約14万トンに増加したが、その後減少し、2000～2004年は2万トン以下で推移した。2005年以降は増加し、2万～5万トン台で推移した。2010年は3.6万トン（対前年比98%）であった。

平舘港のサバ類の漁獲量は、1985～1989年は30～60トン台で推移したが、1990～1992年は10トンを下回った。1993～1994年は100トン以上の漁獲量に回復したが、1995年以降は減少し、2～50トン台で推移した。2010年は4.3トン（対前年比16%）であった。

日本海のサバ類の漁獲量は、1985～1990年は30～90トン台で推移し、1988年の90トン台がピークであった。1991年以降は減少し、0.5～20トン台で推移した。2010年は10トン（対前年比63%）であった。

八戸港のマイワシ漁獲量は、1985～1990年は20万～40万トン台で推移したが、1991年以降は大幅に減少し、現在は皆無状態となっている。2010年は143トン（対前年比183%）であった。

平舘港のマイワシ漁獲量は、1985～1989年は1千～3千トン台で推移したが、1991年以降は大幅に減少した。2010年は13トン（対前年比53%）であった。

日本海のマイワシ漁獲量は、1990～1992年は120～210トン台で推移したが、1993年以降は大幅に減少した。2010年は0.3トン（対前年比53%）であった。

日本海のマグロ漁獲量は1985～2002年まで1～60トン台で推移した。2003年以降は増加し、2007年に184トンとピークとなった。2008年以降は減少したが、2010年は234トン（対前年比171%）と、1985年以降最高の漁獲となった。

日本海のブリ漁獲量は、1985～1989年は20～50トン台で推移した。1990年以降は増加し、2005年には539トンと1985年以降最高となった。2006年に減少したが、2007年以降は増加し、240～330トン台で推移した。2010年は296トン（対前年比94%）であった。

日本海のマダイ漁獲量は、1985～1991年まで20～70トン台で推移したが、1992年以降は60～150トン台で推移した。2010年は1985年以降最高の195トン（対前年比123%）を記録した。

日本海のアブラツノザメ漁獲量は、1984～1987年漁期は200トン台で推移したが、1988年漁期に743トンと一時的に増加した。1989年漁期以降は100トン前後で推移したが、1993年漁期以降は100トン以下となった。2009年漁期は76トン（対前年比92%）であった。

ヤリイカは大戸瀬では1996年を除く1991～1998年漁期は520～760トン台で推移したが、1999～2001年漁期は減少し、2001年漁期は153トンまで減少した。2002年漁期は692トンと増加したが、2003以降減少し、100～370トン台で推移した。2009年漁期は241トン（対前年比176%）であった。

鱒ヶ沢では1992年漁期以降300～400トン台の水準となったが、2000年漁期以降300トンを下回り、2002年漁期のみ502トンの漁獲がみられた。2009年漁期は162トン（対前年比118%）であった。下前では1998年漁期に318トンと1984年漁期以降最高となったが、1999年漁期以降は減少し、20～80トン台で推移した。2007年漁期に181トンに増加したが、2009年漁期は50トン（対前年比170%）となった。三厩では1987～1993年漁期は30～80トン台で推移し、1994～1996年漁期は70～110トン台と増加した。1997年以降は減少し、2007年漁期には増加したが、2009年漁期は13トン（対前年比40%）と減少した。佐井では1984～1993年漁期は10～60トン台で推移し、1994～1996年漁期は70

～130 トン台に増加した。1997～2005 年は減少し、2006～2007 年漁期は 90～100 トン台と増加した。2009 年漁期は 32 トン（対前年比 104%）となった。

大畑では 1988～2005 年漁期は 20～70 トン台で推移し、2006 年漁期は 138 トンと増加したものの、2007 年漁期は 46 トンと減少した。2009 年漁期は 29 トン（対前年比 53%）と減少した。